

地下鉄南北線の開業

仙台市博物館 学芸普及室 二上 玲子

第9回

市電から地下鉄へ

仙台市地下鉄は、昭和六十二年（一九八七）に八乙女・富沢間で開業しました。全国で九番目、東北では初めての地下鉄です。

仙台市では、大正十五年（一九二六）の開業以来、路面電車（市電）が市民の足として活躍し、昭和三十年代には、一日の平均利用者数が九万人を超えるほどになりました。しかし、自動車の普及により交通渋滞が深刻化し、昭和四十年代になると市電の利用者は減少、廃止へと向かいます（昭和五十一年全面廃止）。

このような状況のなか、仙台市では新たな交通手段の導入が検討されます。昭和四十四年（一九六九）に設置された仙台市交通計画委員会は、昭和四十七年に、仙台駅を中心とした七路線、総延長四五・五二キロメートルの地下鉄を昭和六十年を目標に整備し、特に交通量が多い、泉市を含む南北方向の路線を優先して建設するべき、との答申を提出しました。

南北線の開業

昭和五十六年（一九八一）に地下鉄の建設工事が始まりましたが、途中、工事の遅れもあり、昭和六十年三月によ

う十六の駅の名前が決定しました。そのうち七駅は、住民からの要望などにより仮駅名から変更になりました。最終決定した駅名は、八乙女（七北田）、黒松、旭ヶ丘、台原（瓦山）、北仙台、北四番丁、勾当台公園（勾当台）、広瀬通、仙台五橋（五ツ橋）、愛宕橋、河原町、長町一丁目（広瀬橋）、長町、長町南（鍋田）、富沢（泉崎）駅（かっこ内は仮駅名）です。このうち、八乙女駅と黒松駅は、当時泉市に含まれていました。

そして、昭和六十二年（一九八七）七月十五日午前五時四十五分、乗客四百人に乗せた一番電車が富沢駅から八乙女駅に向けて発車しました。前日から祝賀行事も行われ、開業ムードを盛り上げました。

開業直後の一日平均利用者数は、開業前の見込み約二十三万人の半分にとどまりました。しかしその後、周辺地域の宅地開発が進み、当初の目標人数には及ばないものの、利用者数は徐々に増え、重要な市民の足となりました。課題であった泉市中心部への延伸については、昭和六十三年（一九八八）、泉市が仙台市と合併した後、工事が開始され、平成四年（一九九二）七月に泉中央駅までの全線一四・八キロメートルが開業しました。

大規模イベントと地下鉄

平成元年（一九八九）七月二十九日から十月十六日まで七北田赤生津地区を主会場として「'89グリーンフェアせんだい」（全国都市緑化フェア）が開催されました。会場選定理由のひとつが、地下鉄八乙女駅が近いことでした。百万人の入場者数を想定しており、交通渋滞と駐車場問題が懸念されたため、地下鉄利用を積極的に周知し、円滑な交通の確保を図りました。また、八乙女駅から会場までは無料のシャトルバスでピストン輸送を行い、利便性を高めました。

約百三十九万人の総入場者数のうち、地下鉄を利用した来場者は約四十万人でした。地下鉄は、大規模イベントにおける大量輸送の実現と、地域の活性化の役割も果たしたのです。



八乙女・泉中央駅間の地上高架部分を走行する地下鉄南北線
平成21年（2009）

仙台市史 全32巻

原始から平成元年までの仙台の歴史をわかりやすく紹介！

「通史編」のほか、古代から現代までの歴史資料で構成される「資料編」、特定のテーマを詳しく掘り下げた「特別編」、「年表・索引」があります。



ピックアップ紹介



資料編5 近代現代1 交通建設

A5判/589ページ 4,191円(税込)

明治時代以降の資料をもとに、人力車から地下鉄南北線開業までの交通の変遷と、大都市へと変貌する仙台のまちづくりを紹介。仙台市電や私鉄など鉄道に関する資料も豊富に収録しています。



既刊紹介や購入方法は博物館ホームページでご案内しています。

仙台市博物館
SENDAI CITY MUSEUM

▶博物館ホームページ

仙台市博物館

検索

▶お問い合わせ

〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡)

▶博物館ツイッター

@sendai_shihaku

TEL:022-225-3074 8:30-17:15 ※土・日・祝休日・年末年始

※当館は現在、大規模改修工事のため休館しています。令和6年4月に再開予定です。

(12/28~1/3)を除く